

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971000431		
法人名	ホームケア株式会社		
事業所名	ホームケア香芝		
所在地	奈良県香芝市五位堂6-220-1		
自己評価作成日	平成27年3月4日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2971000431-00&PrefCd=29&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成27年4月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個の尊厳を大切にしてお一人お一人に対し日々取り組ませて頂いています。利用者の皆様がいつも笑顔で生活して頂く事を目標に個別支援の充実を目指しています。また地域ボランティアの参加呼びかけを積極的に行い地域の方々との接する機会を得て地域の中で生活していけるよう援助しています。以前のような賑やかな施設になるよう入居希望者の募集も積極的に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、JRと私鉄の駅に近い新興住宅地と旧住宅地が融合した地域に位置しており、ホームの建物は周りの家並みに違和感無く溶け込んでいる。津田梅子氏が津田塾を設立した時の考え方を法人が運営するグループホームの理念とし、利用者一人ひとりの尊厳を守り、出来ないことをさりげなくサポート(黒子のようなサポート)することを管理者、職員が共有している。管理者はケアマネージャーも兼ねており、利用者の生活状況をよく把握し、生活援助に重点をおいて職員と共に日々のケアに当たっている。永年勤めている職員が多くコミュニケーションはよく取れている

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲げ「個の尊厳」・「個人情報保護」などの研修、日々のカンファレンス等職員全員で理念を共感し実践に取り組んでいる。	津田梅子女史が津田塾を設立時の考え方を、法人が有するグループホームの理念として、共有している。利用者一人ひとりの思いを大切に、その人にあった個別のケアを模索し、実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設内にある小規模多機能型居宅介護事業所は休止中であるがそのフロアを借りてボランティアやイベント(季節行事・誕生日会)等の催しを行っている。また自治会に入るなど地域の関わりを持っている。	2ヶ月に1度位、楽器演奏のボランティアが来ている。自治会には加入しているが、自治会行事に参加したり、地域住民と気軽に交流するところまでは至っていない。	管理者の異動や自治会役員の改選、土地柄などもあり、こしばらくはじっくりと地域交流に取り組みしていない。4月に自治会役員の改選を機に、管理者は地域との交流の機会を増やす取組みを行う予定である。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員全員が地域の方に役立つ事業所でありたいとの思いで接しており施設は自由に出入りして頂けるよう開放し地域住民との交流を増やしていく中で気軽に相談に来ていただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	特定の自治会の方、市の職員の方の協力を得て定期的に開催されている。ご家族や近隣住民の参加を得ることが難しい状況ではあるが馴染みのメンバーゆえ信頼の中で踏み込んだ話し合いができています。そこでの意見はそのままサービスに結びついている。	市の担当職員、地域包括支援センター職員、家族代表、事業所職員等の参加を得て2ヶ月に1度運営推進会議が行われている。地域代表として地主の方が毎回出席されているが、自治会役員、民生委員、住民などの参加は得られていない。会議では市の福祉行政に対する取り組みや、事業所の現状などが話されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の高齢者サービスについての相談・苦情の相談・入居依頼のお客様の相談などを含め担当者と頻繁に行き来しており地域包括センター主催のグループホーム会議等にも出席し連携を図っている。	市担当者とは電話やメールで、また担当課に出向き積極的に情報交換を図るなど連携を密にしている。保護課にも入居の情報を提供しようとして予定している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害についての研修を継続的に行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間以外は施錠することなく、天気の良い日は開放するよう心がけ職員は日々拘束をしないサービスの検討を行っている。	管理者会議で「身体拘束」の事例による検討を行い、事業所に持ち帰り話し合い、また法人の研修に積極的に参加し、「拘束をしない」取組みを行なっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止関連法」「気づかない虐待」についてマニュアルや事例報告等により定期的な研修を行っており虐待について厳しく受け止めながら日々のサービス提供にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の受け入れ相談時ご家族や関係者とはそれらについて話し合っている。また成年後見等必要な方の受け入れの事例を運営推進会議等で支援内容を報告し職員一人一人が制度を理解し必要な方に活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は担当責任者が十分な説明を行い理解・納得して頂いている。必要な場合は何度でも説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等の意見・不満・苦情には迅速に対応しており運営推進会議等で報告し速やかに反映できるよう努めている。運営推進会議の場合は苦情・不満が率直に出せるよう進行に努めている。	来訪された家族に職員から声をかけて、意見や要望を聴くようにしている。個別の継続的な相談記録をつくり、過去の相談内容が判るようにと考えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	情報は全員に伝えており都度意見と共に反映させている。	定期の職員会議はなく、管理者会議の伝達事項や意見などは、ノートに書き、回覧している。随時又は雇用契約更新時には個別面談を行っている。	職員会議を定期的開催されることを期待する。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の努力・実績・勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員を育成する為研修を受ける機会を確保しており計画的な内部及び外部研修の参加機会を設け職員育成を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワークに関わっている。社協等の研修に同業者との交流がありサービス向上できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接本人と話す機会をゆっくり持っている。ご家族や本人の身近な方にも直接お話を聞きより多くの情報を得ている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心・納得されるまで何回でも何時間でも聞く機会を作っている。面談や電話で行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の意向をしっかりと聞き取り本人とご家族が一番必要としている支援を見極める対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と生活を一緒に過ごさせて頂きながらご本人の想いを共感し多くを学ばせて頂きながら支えあう関係を築くよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご苦労や想いに共感・理解し信頼関係を築きながらご家族と共に本人を支えている関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族了承のもと友人・実家近所の方と面会の場を持ち関係の維持に努めている。	4割くらいの家族は毎月来訪されている。家族同伴でかかりつけ医の受診時に食事や買い物もされる方もある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好な関係になれるよう利用者の状態、性格等考えながら支援している。また問題発生時は直ちにカンファレンスを行い改善を図っている。		
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の相談を受け対応させて頂いている。荷物の後始末・挨拶等一緒にさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期研修時にも社員・パート関係なく意見を出し合い入居者様に最適なケアができるよう見直しを行っている。	本人の思いや意向は、利用開始時のアセスメントで行っているが、利用後の生活のなかで入浴時やトイレ介助時などに本人と話すことで希望や意向の把握をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴や生活環境等の把握に努め毎日の話題等支援内容に取り入れている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状況変化をカンファレンスで話し合い把握し介護計画に基づいて統一した援助を実行している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族や必要な関係者と話し合い利用者本位の介護計画の作成・変更・実施を繰り返している。	病院や施設の事前情報や利用前に本人、家族と行うカンファレンスを基に、利用後は業務の中で職員から意見を聴き、介護計画を作成している。毎月ケース会議を行い、定期的に見直しがされており、本人の意向が反映された介護計画の作成を目指している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日利用者の介護記録を記入し変化については申し送りやカンファレンスを行い情報の共有・計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の対応は全て受け入れその他個別の対応も要望に応じている。入退居の荷物の搬入・搬出支援、送迎サービス・介護用品の購入の相談支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの定期訪問によるレクリエーションや外部法人によるボランティアなども積極的に取り入れ利用者様に楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医療機関はあるが馴染みや希望の医療機関がある場合情報提供しながら連携するよう努めている。協力医療機関との連携が整っており24時間相談できる体制になっている。	月に2回協力医の往診があるので、以前のかかりつけ医を変更される方は多い。専門医を受診される方は、家族同伴や、介護タクシーを利用して職員同伴の通院介助を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況把握に努め主治診療看護師との連携、協力医療機関看護師と24時間相談できる体制になっており日々の健康管理や医療相談を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は病院関係者(入院病院の医師・看護師)と連携し早期退院できるよう情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族の意向を確認し状態の変化時には主治医より説明本人・ご家族の意向の把握を行っている。情報を基に対応方針を定め職員間で情報を共有し主治医と共に職員ができる事できない事の見極めを検討し医師や訪問看護ステーションと連携し支援している。	看取り支援について明文化された指針はないが、利用者、家族の意向を配慮し、話し合いで行なっている。協力医とは24時間連絡は取れるが、常勤看護師はいない。最期は病院での看取りがほとんどである。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがありマニュアルに沿って研修を行い対応できるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	火災等のマニュアルに沿った防災訓練を消防署の方にも協力頂き定期的に行っている。被災時の応援に地域の人へ呼びかけている。また事業所だけでなく法人全体としての応援体制を整えている。	夜間想定や利用者が参加しての避難訓練を年2回行っている。スプリンクラーと緊急通報装置は設置済みである。非常時には近くに住む職員が駆けつけ対応する手はずになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を大切にその人に適した言葉かけや対応に努めている。人生の先人として尊び日々教えられる立場であることを命じて介護にあたらせて頂いている。	プライバシー保護について毎年研修を行なっている。職員は利用者一人ひとりに合わせた声かけや対応について注意しながら支援している。入浴時、同性介助を希望する方が2名おられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の能力に合わせた説明を行い本人の思いや希望をくみ取り支援している。本人の希望等は介護計画書に取り入れ職員全員が把握するよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合った生活ができるよう状態を把握し支援する。支援内容は介護計画書に取り入れ統一した支援を行っている。買い物や散歩などできるだけ希望に沿った対応をしている。食事時間についても調子を見ながら時間をずらして対応を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。訪問美容サービスを受けているが望む店に行かれる場合は支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや能力に応じて好きなものを買って食べられるよう支援内容を計画し準備や後片付け、食事を楽しんで頂けるよう支援している。介助・見守りを優先しながら職員ができるだけ同じ食卓につくよう努めている。	クックチルド方式の副菜を業者が納入し、ご飯は事業所で炊いている。毎週月曜日に検食を行っている。誕生会には皆でお好みのおやつ作りをしている。家族同伴で外食される方もあるが、事業所として外食の機会はない。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算し栄養バランスに配慮した食材を利用し摂取量・水分量を記録一人一人の状態や習慣に応じた支援を行っている。状態の変化により医師に相談し栄養補助飲料やペースト・ゼリー食の食事提供もやっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず一人一人の口腔状態に応じた口腔ケアを行っている。状態の変化によりカンファレンスを行い変更・実施し口腔内の清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握することで排泄の失敗やおムツの使用を減らせるよう支援する。介護記録に基づきカンファレンスを行い支援内容の統一を図り介護計画の見直し・変更・実施を行っている。	多くの利用者はリハビリパンツを使用し、排泄の状態を介護見守り記録表に詳細に記録して、一人ひとりの排泄状況を把握し支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防する為1日1200cc～1500ccの水分補給に努めラジオ体操・散歩等による適度な運動、医師指示等による食事内容の工夫等を行っている。一人一人個別に援助内容を計画し支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の身体状況に合わせた入浴支援内容を計画し入浴を楽しんで頂いている。一番風呂に入りたい等ご本人の希望に合わせた対応を心がけている。	概ね週2回、午後に3名の入浴介助を実施している。寒い時季には入浴を嫌がる方もいるが、声掛けを工夫し誘導して湯につかれれば、楽しんでくれることが多い。個々の入浴支援の方法を、介護計画にあげている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく休息したり眠れるよう環境を整え支援しており身体状況の変化等に応じ適切な支援が行われるように継続したカンファレンスを行い状況把握に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬局から頂いた薬の情報を確認し服薬の支援と症状の変化の観察に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に目的支援を計画し実行することで日々の生活に張り合いや喜びをもっていただけるよう支援する。計画の内容は本人の希望や能力に応じカンファレンスにより話し合っ決めて変更している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は午前中に何組かに分けて近くへ散歩に出掛ける。近くのスーパーへ日用品などの買い物時付き添って頂く事もある。	天気が良いと外でボール投げをしたり、歌を歌ったり、近くに散歩に出掛けたりしている。時には1対1で買い物に行くこともあるが、事業所の行事としての外出支援は特にない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の能力に合わせて金銭支援を行い関わりをもって頂いている。近くのスーパー等への買い物に行った時の支払い等の具体的内容は介護計画書に記載している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人一人の希望や能力に応じて電話や手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は家庭的な雰囲気になるよう配慮し季節の行事毎に飾りつけの工夫をしており居心地よく過ごしていただけるよう努めている。台所は調理している所が見えるようになっており常に職員との会話が飛び交う環境になっている。	居間に面して台所と風呂場が隣接しており、日中居間に居ることの多い利用者の見守りがしやすくなっている。玄関入り口やそれに通じる花壇には花が植えられ、隣接地の小規模多機能庭にシンボルツリーがあるといいねと話が出ていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルやソファなど自由に使用し過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある家具を本にゃご家族の好みに配置され写真を飾るなどその人らしい生活空間作りをご家族や本人と相談しながら行っている。	ベッド、エアコン、カーテンは完備されているが、たんす、テレビ、テーブル、椅子などが持ち込まれ、使いやすく配置されている。壁には色紙に墨書きの感謝状や寄せ書きで一杯の色紙のバースデイカードなどが飾られていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・廊下・浴室・トイレ等に手すりを設置し自立した生活が送れるようにしており身体状況により居室に手すりが必要な場合はご家族と相談し対応している。		